

基本理念検討資料



【基本理念（案）の考え方】

①豊かな歴史・自然・暮らしの中で笑顔あふれ、笑顔で迎える北海道の観光都市・函館へ

～“人情味ある温かい”市民が迎える観光の都市へ～

考え方： 函館市は、函館の異国情緒あふれるまち並み、歴史的文化遺産、美しい自然、豊かな温泉など、豊富な歴史・文化の観光資源とともに、多くの市民が暮らす活気あるまちのなかで、函館ブランドが形成されていますが、次の10年間は函館市民が笑顔あふれ、旅行者を笑顔で迎えるような、市民一人ひとりが温かい真心で旅行者を迎える観光都市を目指していく、といった北海道・函館の“人情味ある温かい”イメージを強く押し出していくことに重点を置いた理念案です。

②世界を魅了する、歴史と文化の道南の観光拠点都市・函館へ

～世界に開かれ、世界中から観光客が訪れる・訪れたいくなる観光拠点都市づくり～

考え方： 我が国の少子高齢化・人口減少傾向、旅行参加回数の横ばい・減少傾向にあるなかで、函館市においては、異国情緒あふれるまち並み、歴史的文化遺産、美しい自然、豊かな温泉など、豊富に蓄積する歴史と文化の観光資源に磨きをかけ、さらに新たな観光資源を創出しながら、日本国内にとどまらず、世界へ向けて函館市の観光魅力を情報発信することなどにより、世界に開かれ、世界中から観光客が訪れる・訪れたいと思うような「世界を魅了する道南の観光拠点都市」を目指していく、といった意味が込められています。

③日本の宝石箱・観光都市・函館

～魅力ある観光資源がぎっしり詰まった観光都市の創造～

考え方： 函館市は、日本三大夜景に数えられる「函館山の夜景」、「恵まれた海産物（カニ・イカ・イクラ・・・）」をはじめ、函館の歴史や文化、北海道らしい自然景観（昆布干しの風景や恵山・・・）などを豊富な観光資源を有することから、函館市を「宝石箱」として捉え、既存の観光資源をさらに磨き上げ、新たな観光資源も加えつつ、函館観光の魅力を高めて行き、キラキラと輝く宝石（観光資源）がぎっしり詰まった「宝石箱」のような観光都市・函館にしていく、といった意味が込められています。

④進化成長する新たな観光都市・函館の創造

～先人からの歴史と文化の継承と新たな函館観光の展開～

考え方： 函館には魅力ある観光素材が豊富に存在し、日本人の誰もが一度は行ってみたいと思う日本有数の観光地になっています。また一度訪れた観光客の再来訪意向が高いのも函館の特徴と言えます。また函館へ訪れている旅行者の約半数は2回以上の訪問経験があり、リピート率の高さがうかがえます。

こうした函館への訪問意向や旅行者の特徴をはじめ、我が国の人口減少化社会にあるなかで、函館市においては既存の観光資源に加えて、新たな函館観光の魅力を発掘・発信していくことが、観光需要の維持・創出において、今後さらに求められることが予想されます。

そのため、既存の観光素材を見直し、ブラッシュアップを図るとともに、新たな函館観光の魅力を再発見（発掘）しつつ、磨き上げるなど、先人からの歴史と文化を大切に引き継ぎながら、さらに進化成長していく観光都市としての函館を創造していく、といった意味が込められています。

⑤異文化交わる表情豊かな観光のまち・函館

～交流盛んで、観光魅力もあふれるまちづくり～

考え方： 幕末に横浜や長崎とともに国際貿易港として開港した函館は古くから外国文化と交わってきています。これからは国際観光を介した外国文化との交流、国内観光を介した他地域文化との交流をますます盛んにし、国内はもとより諸外国から更に多くの観光客を誘致し、異文化が交わるまちを目指していく、といった意味が「異文化交わる」には、込められています。

さらに「表情豊か」には、異国情緒あふれる歴史的景観をはじめ函館山からの夜景、恵山などの自然景観、豊富な農産物・海産物のように多種多様な魅力ある観光資源を活かし・さらに磨きをかけ、後世へ伝えていくと共に、ワクワクとした旅行者の笑顔をはじめ旅行者を迎えるイキイキとした市民の笑顔など旅行者・住民双方に笑顔があるような、様々に「表情豊か」な観光のまちにしていく、といった意味が込められております。

⑥憧れのまち・函館へ

～函館ブランドと函館イメージの強化～

考え方： 我が国では人口減少化、国際化などを背景に、地域の自立が不可欠となっているなかで、観光による交流人口の拡大、地域・地域経済の活性化においては、地域の個性化・差別化が重要かつ不可欠です。

函館は認知度が高くかつ訪問意向も強い観光地として高く評価されており、また訪問経験者の再来訪意向も強い観光地として、既に日本を代表する観光地の一つとなっています。

この背景には、函館ならではの魅力的かつ特徴的で、高い評価を得ている「景観」、「歴史・文化」、「食」が豊富にあることが大きな要因として考えられます。

こうしたことから函館は、地域の個性化・差別化を図るうえで、ブランド観光地域となりうる可能性を十分に秘めており、また函館イメージの強化ないしは新たな形成も十分に可能です。

そのため次の10年間では、外部からの函館への高い評価をはじめ、函館ならではの魅力的かつ特徴的で、高い評価を得ている「景観」、「歴史・文化」、「食」を活かし、観光関係者をはじめ地元住民が協働して、これらの「景観」、「歴史・文化」、「食」を徹底的に磨き上げていくことにより、内外から「函館は、本当に素晴らしいまちだ」、「一生に一度は訪れて滞在してみたいまちだ」、「素敵なまちで羨ましい」など、と憧れを持って評価される観光のまちにしていく、といった、「憧れ」を意識した観光まちづくりの意味が込められています。

⑦感動のまち・函館へ

～「なんて美しい!」、「なんて美味しい!」、「なんてすばらしい!」と言われるまちづくり～

考え方： 上記同様の背景から、外部からの函館への高い評価をはじめ、函館ならではの魅力的かつ特徴的な「景観」、「歴史・文化」、「食」を背景に、外部からの高い評価を受け止め、函館ならではの「景観」、「歴史・文化」、「食」を活かし、観光関係者をはじめ地元住民が協働して、この10年間に徹底的に磨き上げていくことにより、国内外から訪れる観光客が、「なんて美しい!」、「なんて美味しい!」、「なんてすばらしい!」、など、函館観光を通して、滞在した分だけ多くの「感動」を味わうことができるような、「感動できるまち」にしていく、といった「感動」の提供を意識した観光まちづくりの意味が込められています。

⑧極上のまち・函館へ

～じっくりと滞在し、満足度の高い観光ができるまちづくり～

考え方： 上記同様に、外部からの函館への高い評価をはじめ、函館ならではの魅力的かつ特徴的な「景観」、「歴史・文化」、「食」を背景に、外部からの高い評価を受け止め、函館ならではの「景観」、「歴史・文化」、「食」を活かし、函館ならではの「景観」、「歴史・文化」、「食」を活かし、観光関係者をはじめ地元住民が協働して、この10年間に徹底的に磨き上げていくことにより、「景観」、「歴史・文化」、「食」のいずれもが「極めて上質」として評価され、多くの「極めて上質」のなかで、じっくりと滞在し満足度のいく観光ができるような、極上のまちにしていく、といった「極上」の実現を意識した観光まちづくりの意味が込められています。

⑨スロートゥリズム in はこだて

～滞在型観光の拠点づくり～

考え方： 地域経済の活性化には観光による交流人口の拡大差別化が重要かつ不可欠ですが、少子高齢化・人口減少化社会を迎えた我が国においては、右肩上がりの観光客数拡大は非常に厳しい状況にあります。そのため、観光庁では着地型観光の促進や観光の質（満足度）を高める事により、滞在時間の延長やリピーターの拡大を図っております。

滞在時間の延長により、地域内での消費活動も拡大し、地域経済への貢献が期待されます。そのため、函館に訪れた観光客が、函館市内にゆっくり滞在し、存分に函館観光の魅力を堪能できるよう、既存観光資源のブラッシュアップや新たな観光資源の発掘に加え、観光客が安心して滞在できるよう観光事業者はもちろん、函館市民のおもてなし意識の向上など、受け入れ環境の整備を図ることにより、滞在型観光の拠点づくりを進めるといった意味が込められております。

⑩北海道の迎賓都市・函館

～歓迎の心を持って迎える観光からの都市づくり～

考え方： 北海道はLCCの就航、北海道新幹線の開業などにより、観光客の入込増加が予想されます。なかでも北海道新幹線の平成27年度末開業により、北関東や東北方面から相当数の観光客の入込増が見込まれます。またこれらの観光客にとって函館は、事実上、北海道観光の“表玄関”となることから、北海道観光の第一印象を決定づける極めて重要な役割を担うことが予想されます。

そのため函館市においては、北海道新幹線開業を一時的な事象に終わらせることなく、観光客が再び訪れたいくなるような、あるいは「函館はすばらしいまちだったよ」と知人友人に伝えられるような、観光からのまちづくりが求められます。

「迎賓都市」とする背景には、北海道新幹線開業により道外からの観光客が、北海道を訪れる時に、必ず訪れる観光都市となることを想定し、先人が遺した函館ならではの「歴史」、「文化」、「食」など質の高い豊富な財産を活かしながら、函館市民一人ひとりが歓迎の心を持って観光客を迎え入れることができる都市にしていく、といった意味が込められています。

⑪笑顔あふれる北海道の観光都市・函館

～市民が笑顔でやさしく観光客を迎える観光からの都市づくり～

考え方： 上記同様の背景から、次の10年間は、先人が遺した函館ならではの「歴史」、「文化」、「食」など質の高い豊富な財産を活かしながら、函館市民一人ひとりの人材育成に重点を置き、さまざまな人材育成を通して、市民一人ひとりが観光振興を正しく理解して、笑顔でやさしく親切に観光客を迎え入れることができるような北海道の観光都市・函館にしていく、といった意味が込められています。なお①はイメージ形成としての「笑顔あふれる」ですが、⑪は人材育成の表現としての「笑顔あふれる」としています。

⑫深く心に残る道南のまち・函館

～観光に対する市民意識が極めて特化したまちづくり～

考え方： さらに日本において観光に対する市民の意識が極めて特化したまちにしていくことで、笑顔のみならず、より深く函館市民と観光客が真の交流により、観光客が単なる物見遊山の函館観光にとどまらず、より深く充実した函館観光ができ、函館観光が深く心に残るような道南のまち・函館にしていく、といった、より一層高いレベルの人材育成を指向した理念案です。

- ・ **歴史**と**文化**の結びつけが「**ブランド力**」形成につながる
- ・ 「**イメージ**」（笑顔がない、大門が寂しいなど）は良くないといわれることがある
- ・ 「**ブランド力**」と「**イメージ**」の高まり組み合わせが魅力的な観光地になる
- ・ **歴史**や**文化**は「**ブランド**」と「**イメージ**」を形成する主要要素
- ・ 函館独特の**歴史**や**景観**の保全など「**守っていく**」視点が重要
- ・ 函館ならではの価値を**将来へ残していくべき**
- ・ **市民**の生活、**景観**、**歴史**、伝統、**文化**の**継承**
- ・ 函館の**歴史**の**特色**をいかに出していくかが鍵
- ・ **文化**や**歴史**に触れる機会の提供が魅力的なまちづくりにつながっていく
- ・ **歴史**的背景を含め、西部地区全体を一括りにした情報発信
- ・ 個々の観光資源に深みを与えるための**物語づくり**が必要
- ・ 旧4町村も**歴史**、**文化**、**景観**が全てそろった魅力的な地域
- ・ **市民**が函館の街に対する誇りを持つことも必要
- ・ 「来て良かった」と思っただけの**状況の維持**
- ・ 期待を裏切らない観光地
- ・ 移入を増やして企業を成り立たせ、人材の確保へ
- ・ 函館を訪れる外国人観光客が増加しており、平成元年制定の国際観光都市宣言がリアリティを持ってきた

赤：複数出た単語　　青：それぞれ類似する単語